

## 東海市総合福祉計画推進協議会会議録

- 1 会 議 名 令和6年度第1回東海市総合福祉計画推進協議会
- 2 開催日時 令和6年8月5日（月）午後2時～午後3時40分
- 3 開催場所 東海市役所302会議室
- 4 出席者
  - (1) 委 員 原田正樹、蟹江幹雄、森山慶郷、相澤隆雄、吉井寛、  
菊池孝敏、加来公一郎、山田孝介、今井友乃、田中薫、  
古谷仁彦、小嶋真一郎、杉山勝俊、高井智広、田中潤也、  
中根恵美子、栗野剛宜、香田和子
  - (2) 事務局 市民福祉部長、健康福祉監、市民福祉部次長、こども課長、  
高齢者支援課長、社会福祉課長、同統括主任（2名）、同  
主任（2名）、社会福祉協議会事務局長
- 5 欠 席 者 1人（佐野宏樹）
- 6 公開の可否 公開
- 7 傍聴人の数 0人
- 8 会議の内容

### (1) 挨拶（市長）

夏休みに入り、各地域で夏祭りや盆踊り大会が開催され、地域の皆さんが活動されている姿を見ると大変嬉しく思う。地域からは、人材不足や町内会加入率の低下が心配される声が上がっているが、夏祭りなどのイベントには子どもから大人までたくさんの人が集まり、盛り上がっている姿を見ると改めて地域のつながりの大切さを感じる。

東海市では今年度から第7次東海市総合計画がスタートし「ともにつながり 笑顔と希望あふれるまち とうかい」をキャッチフレーズにしている。福祉分野でも第4次東海市総合福祉計画が同じくスタートし「0歳から100歳までの地域包括ケア」の考え方を包含し「おもい つながり ささえあう」を理念に立てた計画となっている。

本協議会の皆様には、この東海市総合福祉計画の推進に向けて様々な立場から忌憚ないご意見をいただきたい。

(2) 自己紹介

名簿順に自己紹介

(3) 会長、職務代理者の選出

委員の互選により、原田正樹委員が会長に選出された。

原田会長挨拶

東海市のこれからの総合福祉を皆さんと一緒に語り合いながら、一歩でも前に進められるように努めていきたい。

会長より、蟹江幹雄委員が職務代理者に指名された。

蟹江職務代理者挨拶

福祉は範囲が広く難しい課題が多いが、会長を精一杯支えていきたい。

(4) 諮問

市長より原田会長へ諮問した。

(5) 議題

ア 第3次東海市総合福祉計画の評価・分析について

主な質疑等は以下のとおり

今井委員 資料1－2の基準値とは何の数値なのか。

事務局 第3次東海市総合福祉計画をスタートした平成26年度時点の数値を各指標の基準値としている。

原田会長 各指標の方向性の矢印はどのような意味を示しているのか。

事務局 各指標が上昇傾向にあるべきか下降傾向にあるべきかを矢印で表示している。

栗野委員 災害時避難行動要支援者名簿外部提供者数について、人数を増やすことも重要だが、その後、支援が必要な人を具体的にどのように支援していくのかを進めないと意味がない。その辺りはどこまで具体化されているのか。

事務局 第3次東海市総合福祉計画の指標の中では、発災時の具体的な支援を評価する指標がなかったが、第4次東海市総合福祉計画では、災害時支援を重点項目に位置付け、プロジェクトを立ち上げて災害に備えた福祉の体制づくりを進めていくこととしている。

## イ 第4次東海市総合福祉計画について

### （ア）第4次東海市総合福祉計画の概要

主な質疑等は以下のとおり

原田会長 第7次東海市総合計画と第4次東海市総合福祉計画との関連はどのように整理されているのか。

事務局 第4次東海市総合福祉計画は、第7次東海市総合計画の中でも福祉の最上位計画として位置付けられている。

原田会長 東海市では、第4次東海市総合福祉計画から、分野別ではなく目的別に施策を立て、分野を横ぐしで刺すような形で策定されているが、他の自治体ではここまで整理できていない。委員の皆さんにも、この横ぐしで刺すイメージを持っていただき、児童、障がい、高齢の分野がばらばらにならないように、本協議会で各分野をきちんと関連させながら計画を推進させていきたい。そのため、各分野計画の報告も本協議会でしていただきたい。

### （イ）各協議会の進捗について

### （ウ）関連計画の策定状況

（イ）、（ウ）は併せて説明し、主な質疑等は以下のとおり

古谷委員 こども計画に子どもの貧困対策推進計画等を包含した形でこども計画を策定していく中で、生活支援体制整備等協議会等との連携はどのようにしているのか。

事務局 子どもの貧困対策推進計画は東海市では今まで策定していない計画であり、今回こども計画に包含する形で新たに策定するものである。生活支援体制整備等協議会等には、こども課の職員も参加しており、会議で出てきた内容は課内で共有し、連携を図りながら進めている。

原田会長 子どもの貧困という言葉が注目されているが、子どもだけが貧困なのではなく、その世帯が貧困であることが前提としてあるため、その世帯全体をどう支えていくのかを議論しなければならない。

例えば、ヤングケアラーの中でも兄弟の支援をしている場合、障がい者分野との連携を図る必要があったり、親の介護をしている

場合は、介護分野との連携を図る必要がある等、従来のような子どものためだけの計画ではいけない。東海市総合福祉計画と同様、縦割りではなく、横の関係を意識した計画にする必要がある。

高井委員 地域住民の身近なエリアで地域別意見交換会等を行っているとのことだが、具体的にどのエリアでどんなことをやっていく等の方向性のようなものはあるのか。

事務局 今年度から、計画に基づきコミュニティソーシャルワーカーを東海市として初めて配置した。まずは緑陽地区に1名配置し、地域での生活課題の解決に向けて取り組んでいる。今後は、適宜各地区に増やしていく予定である。

事務局 第4次東海市総合福祉計画は社会福祉協議会の地域福祉活動計画と一体的に策定しており、地域づくりを市と連携しながら進めていくこととしている。現在は、小学校区単位をメインに地域別意見交換会を行っているが、町内会単位で行うこともある。地域資源のある地域から地域づくりを進めている状況である。

原田会長 このように、皆さんから様々な方向をいただきながら、協議が深まっていくとよい。

#### (エ) 各プロジェクトの進捗状況について

原田会長 第4次東海市総合福祉計画を推進する上で、このプロジェクトをどう動かしていくのかが重要になってくるため、委員の皆さんにも、ぜひ主体的にプロジェクトの進め方についてご意見をいただきたい。

本日は各委員の皆さんに担当プロジェクトを決めてもらい、今後はそのプロジェクトを重点的に見てもらいたいと考えている。直接プロジェクトに参加するのではなく、本協議会の中で、オブザーバーのような形でご意見をいただければと考えている。

森山委員 災害時支援プロジェクト

障がい者の立場から災害時の障がい者への支援方法について見ていきたい。

相澤委員 地域づくりプロジェクト

高齢者団体の立場から、地域の人たちとの交流を広げながら問題点を解決していきたい。

吉井委員 相談支援体制プロジェクト

昨年度からふくしの相談窓口として看板を掲げている。この窓口の今後の普及啓発方法について見ていきたい。

菊池委員 地域づくりプロジェクト

町内会の加入率の問題や地域のつながりの希薄化をどのように解決していけるのか考えていきたい。

加来委員 相談支援体制プロジェクト

総合相談できるような支援体制を市民にどのように周知していくのか見ていきたい。

山田委員 孤独孤立対策プロジェクト

横ぐしを刺す支援体制を現場のプレイヤーにどのように浸透させ、育てていくのかということが課題だと感じている。

今井委員 相談支援体制・地域づくりプロジェクト

幅広い世代を対象に仕事をしているため、様々な課題が見えてきている。重層的な網目を張って誰ひとり取りこぼさない支援体制が築けるとよいと思う。

田中薫委員 災害時支援プロジェクト

能登半島地震を受けて、発災時の初動が重要だと感じたため、災害時の支援体制について見ていきたい。

古谷委員 地域づくりプロジェクト

町内会加入率が半分以下になった時代にどのように地域の問題を解決していくのか参考にしたい。

小嶋委員 災害時支援プロジェクト

杉山委員 災害時支援プロジェクト

歯科医師会でも災害について協議を重ねている。地域や行政と連携を図りながら進めていきたいと考えている。

高井委員 地域づくりプロジェクト

地域で活動している団体と地域での需要を上手くマッチングさ

せたいと考えている。

田中潤委員 地域づくりプロジェクト

町内会に加入しない（できない）人が増えている中、行政と協力して地域を支えていかないといけないと考えている。

中根委員 全体

保健所としては、全てに関連するため全体を見させていただく。

栗野委員 災害時支援プロジェクト

コミュニティで自主防災会の代表をしている。地域防災人材養成講座受講者の活躍の場など、現場でできることを考えていきたい。

香田委員 地域づくりプロジェクト

地域支え合い活動を行っている。高齢者の居場所を通じて地域の若い人との関わりの場を増やしていきたいと考えている。

蟹江委員 全体を見させてもらうが、あえて言えば地域づくりプロジェクトの動きに関心がある。各地域の特性もあるため、市全体で一律に推進できるものでもない。社会福祉協議会と連携を図りながら少しずつでも前に進めていってほしい。

原田会長 皆さんにお話しいただいたことは、今東海市が抱えている課題やこれからのテーマになることばかりで、地域づくりに関心を持っている方が多かったことも、東海市の地域福祉を考えていく上で課題がそこに凝縮していると感じた。

地域づくりの基盤になる地域そのものの組織等が今非常に危機的状況にある中で、何をこれからしていくのか、小さい単位かもしれないが、地域での支え合いが根付いている所もあるため、そこを活かしながらどう地域づくりをしていくのか、が求められている。

災害分野も発災時に誰もが安心できる体制ができているのか、医療との連携や福祉避難所の問題や個別の避難計画等、様々な課題があるため、専門職の視点がとても大事になる。

また、例えば身寄りのない方（おひとり様）が増えていることは、相談支援や孤独孤立に共通して取り組む必要がある。

これらの課題を考える際には、各プロジェクトがそれぞれ関連し

合いながら進めていく必要がある。それぞれを取りまとめる意味でも、本協議会で事務局から各プロジェクトについて報告してもらい、皆さんには、担当プロジェクトを中心にご意見をいただきながら、本計画の推進についての評価を上げていければと考えている。

#### (6) その他

原田会長 10月26、27日に日本社会福祉学会が、11月9、10日には生活困窮者自立支援全国研究交流大会が東海市芸術劇場及び日本福祉大学東海キャンパスで開かれる。一般参加も可能なので、開催日が近づいてきたら再度案内をさせていただくため、興味のある方はぜひ参加してほしい。

事務局 次回の会議は令和7年3月6日(木)午後2時から市役所302会議室、100人会議(多職種意見交換会)を令和7年2月8日(土)午後2時から勤労センターで予定している。同日とも開催日が近づいてきたら、開催通知を送付させていただく。

#### (7) 閉会